

令和3年度あいちラーニング推進事業研究報告書

学校名 愛知県立西尾東高等学校

研究テーマ	「主体的・対話的で深い学び」を推進し、主体的に学習する生徒の育成に向けた取組	
本年度の研究目標	<p>(1) 「主体的」とは何か、「対話的」とは何かを教職員一人一人が考え、「主体的・対話的で深い学び」について、教職員全体で理解を深め、学校全体として授業改善に向けた取組を実践する。</p> <p>(2) 来年度から導入される観点別評価の観点「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」について、その評価を適正に行うための研究を推進し、「主体的に学習に取り組む態度」を育成し、主体的に課題を解決する能力を育成する。</p> <p>(3) BYODを推進し、ICT機器を積極的に活用する。また、ICT機器の活用推進により、様々な課題を多角的、視覚的に捉える能力を育成する。</p> <p>(4) プレゼンテーション活動等を通して、対話を深めながら、学びを追究し、クラス全体で課題を共有し、それを解決できる集団の形成を目指す。</p>	
研究の実施内容		
実施月日	内 容	備 考 (対象生徒等)
5月20日	第1回研究推進委員会（於：校長室） ・今年度の研究テーマ、研究目標の設定について	・研究推進委員
6月22日	第2回研究推進委員会（於：校長室） ・公開授業の実施についての意見交換	・研究推進委員
6月25日	第1回重点校連絡協議会 ・主幹校、重点校としての研究推進について及び令和2年度主幹校としての取組について	・教頭、研究推進委員
7月1日 ～7月20日	第1回授業アンケートの実施（詳細は下記1(1)）	・全教職員（非常勤講師も含む）
7月6日	先進校訪問（愛知県立安城東高等学校の公開授業に参加）	・研究推進委員（2名）
7月27日	第3回研究推進委員会 ・公開授業の授業計画についての意見交換	・研究推進委員
7月29日	名城大学教授・竹内英人先生の研究室訪問 ・今年度の研究アドバイザーの依頼と本校の研究の概要説明と進め方についての打ち合わせ	・教頭、教務主任
8月23日	アクティブラーニングに関する現職研修（詳細は下記2） 講師：名城大学教授 竹内英人先生（Zoomにて開催）	・全教職員
8月30日	授業アンケート分析報告書の提出	・全教職員（非常勤講師も含む）
8月31日	第4回研究推進委員会 ・公開授業の指導案の意見交換	・研究推進委員
9月30日	第1回授業アンケート分析結果を職員会議にて共有	・全教職員
10月8日	第5回研究推進委員会 ・公開授業の指導案と授業内容の意見交換	・研究推進委員
10月14日	第6回研究推進委員会 ・公開授業の最終打ち合わせ	・研究推進委員
10月15日	異校種訪問（西尾市立西尾中学校）	・研究推進委員（3名）
10月19日	あいちラーニング推進事業 公開授業	・研究推進委員 全県の高등학교等より91名参加

10月21日	異校種訪問（西尾市立福地中学校）	・研究推進委員（1名）
11月1日	第7回研究推進委員会 ・公開授業の振り返り	・研究推進委員
11月5日	先進校訪問（愛知県立豊田南高等学校の公開授業に参加） 重点校訪問（愛知県立安城南高等学校の公開授業に参加）	・研究推進委員（2名） ・研究推進委員（2名） ・研究推進委員（2名）
11月9日	先進校訪問（愛知県立高蔵寺高等学校の公開授業に参加）	
11月12日	あいちラーニング推進事業成果合同発表会にて発表 重点校訪問（愛知県立吉良高等学校・高浜高等学校の公開授業に参加）	・教頭、教務主任 ・研究推進委員（各1名） ・全教職員（非常勤講師も含む）
11月15日 ～12月8日	第2回授業アンケートの実施（詳細は下記1（1））	
11月19日	先進校訪問（愛知県立松蔭高等学校の公開授業に参加）	・研究推進委員（1名）
12月28日	授業アンケート分析報告書の提出〆切	・全教職員（非常勤講師も含む） ・研究推進委員（3名）
1月19日	先進校訪問（愛知県立安城東高等学校の公開授業に参加）	
2月9日	第2回重点校連絡協議会（書面開催） ・令和3年度主幹校、重点校としての取組報告	・主幹校・重点校
3月3日	職員会議にて成果発表会と第2回授業アンケート分析結果を共有	・全教職員
3月下旬	本校ホームページにて報告書を掲載	

研究成果の評価及び普及・還元に関する実績

1 授業改善に向けた取組

(1) 授業アンケートの実施（昨年度からの継続）

本校では、以前から授業改善のための授業アンケートを昨年度から継続して行ってきた。ここでは、昨年度の取組を受けて、さらなる授業改善を図るために、今年度実施したことを記載する。

ア アンケートの実施と分析報告書の提出回数と時期の変更

今年度はアンケートの実施と分析報告書の提出回数を1回から2回に変更した。2回にしたことにより、実施時期を各学期末とした。その理由は、1回目のアンケート（1学期末に実施）結果の分析を行うことにより、自身の授業を客観的に捉え、振り返りを行い、2学期以降に分析結果や反省点を意識して授業を行うためである。また、本校では、各授業担当者がまとめた「授業アンケート分析報告書」（指定の書式）を教頭に提出することになっており、さらに、教頭がその授業分析報告書をまとめ、全体報告を職員会議で行った。他の教員が生徒から評価されている点、授業で工夫している点や改善点、ICTの活用状況等の情報共有をすることができ、各教員が刺激を受け、自身の授業に取り入れることができ、お互いを高め合うことができた。

イ 第1回授業アンケート分析報告書のまとめ

第1回授業アンケート分析報告書のまとめより、授業改善に向けての視点の一部を紹介する。

① 生徒の主体的な活動について

- ・生徒同士の話し合いや学び合いの時間を多くとるようにする。
- ・丁寧な教えすぎってしまう傾向があるかもしれない。内容の扱い方にメリハリをつけ、生徒が活動する時間の確保に努めたい。
- ・「問い」を工夫して、生徒自身が考える場面を作り出す。
- ・答えや考え方がいくつもあるような問い（オープクエスチョン）を、調べ学習やグループ活動に取り入れる。

② ICT機器の活用について

- ・ロイロノートは授業を効率的に進められるなどの利点が多い。うまく活用していきたい。
- ・模範解答はロイロノートで示し、授業の効率化を進めたい。
- ・プロジェクターを用いた授業を行うことにより、これまで板書に費やしていた時間をペア学習や考える時間に充てることができた。

③ 授業の進め方等について

- ・机間指導を密に行い、生徒の答えの傾向を把握し、解説を効率的に行う。
- ・授業内で理解させることに加えて、学力を伸ばす活動も考えていく。

これら改善に向けての視点を踏まえて授業を行った結果、第2回授業アンケートでは以下のような意見が見られた。

ウ 第2回授業アンケート分析報告書のまとめ

① 生徒の主体的な活動について

- ・一方的に教えるのではなく、生徒自身に考えてほしいと思い授業改善を試みてきた。ペアワークや考える時間の確保に対する評価が高かったのは満足のいく結果だった。
- ・生徒が前に出て説明する活動を取り入れている。生徒同士で教え合う習慣が身についている。ただし、復習がしづらいという意見があった。
- ・生徒が「自分自身の在り方生き方」と関連付けて考えられるような問いかけのバリエーションを増やしていきたい。

② ICT機器の活用について

- ・ICT活用において、どの項目も1回目アンケートよりも評価が高くなった。毎時間プロジェクターを使用していくうちに、プロジェクターの利点や欠点がわかってきて、より効果的な使い方ができるようになったためだと考える。
- ・ICT機器を使用について、「プロジェクターで図や動画を提示することにより視覚的に理解しやすい」「動きを伴う教材の理解がしやすい」など、好評であった。今後も効果的な分野で活用していきたい。

③ 授業の進め方等について

- ・授業の進度に余裕を持たせるよう心掛けたが、不十分だった。内容を精選する必要がある。
- ・学習へのモチベーションは上がっているが、学力の伸びを実感できるようになるまでは時間がかかる。あきらめず、努力を継続するよう声掛けしていきたい。
- ・従来の授業スタイル（解説、板書、小テスト等）も続けてほしいという意見が複数あった。

エ 本取組の評価と課題

第1回アンケートの結果を踏まえて、様々な改善、発展のための工夫がなされた。一方、課題として以下の点があげられた。

- ・自分で考える時間を確保することにより進度が遅れる。
- ・分かりやすいという評価の一方、学力の向上を実感できていない生徒が増えている。

授業改善のための視点が多く得られたことにより、それらを精選し授業をどう構築するかを見直す必要がある。教師による発問から生徒主体で活動し、考え、その結果を振り返り、教師が適切な評価を示したうえで、授業外（家庭）での自主的な深い学びにつなげていけるような展開を考える。進度を考慮しながら、ICTを効果的に活用することも有効である。そして、学力や技術の定着が実現できる復習の機会も確保していきたい。

(2) 研究授業週間（昨年度からの継続）

下述にある公開授業に合わせ、同週10月18日（月）～22日（金）に研究授業週間を設定した。各教科の代表者7名が研究授業を行ったことに加えて、互いの授業を自由に参観しあうことができる貴重な機会となった。自分の教科だけでなく、他の教科における発問のしかた、ペアワークやグループワークの際の意見交換の方法、ICTの活用場面など、教科の枠を超えて授業改善の新たなヒントを得ることができ、良い刺激になったという意見が聞かれた。また、自分の担当する生徒たちが、他の教科でどのような取組を行っているか知ることができ、生徒理解という点でも貴重であったという意見もあった。

2 現職研修

- (1) 日時：8月23日(月) 13:40～15:10
- (2) 講師：名城大学教授 竹内英人先生
- (3) 内容：「主体的・対話的で深い学び」を引き出すための授業について
- (4) 概要

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、Zoomにて開催した。本校職員も2つの教室に分かれて実施した。

「主体的・対話的で深い学び」を引き出すための授業をテーマに、「生徒に考えさせる授業」の重要性について竹内先生より講義が行われた。授業の目的、展開、発問の仕方等、多岐にわたって、授業の在り方をご教授いただいた。また、授業の5大エッセンスや発問の重要性（ドライビングクエスチョン・キー発問）、「How型の授業ではなくWhy型の授業にする」等、2学期からの授業に取り入れたい実践的な話を伺うことができた。

3 公開授業・研究協議

- (1) 日時
10月19日(火) 12:20～16:20
- (2) 会場
本校視聴覚室、アクティブラーニングルーム他
- (3) 参加者
愛知県全県の高等学校から87名、学校評議員2名、本校職員
- (4) 助言者
名城大学教授 竹内英人先生
総合教育センター研修部基本研修室 佐々木香研究指導主事
- (5) 日程：
12:40～14:10 全体会（学校長挨拶、概要説明、日程説明）〔於：視聴覚室〕
13:20～14:10 研究授業①
 - ・国語〔古典B 2年5組 於：家庭保育経営室〕授業者：教諭 判家正子
 - ・地歴公民〔政治・経済 1年7組 於：社会科教室〕授業者：教諭 布藤祐子
 - ・数学〔数学Ⅱ 2年6組 於：アクティブラーニングルーム〕授業者：教諭 壁谷卓未
 - ・理科〔化学基礎 2年8組 於：化学室〕授業者：教諭 水谷成吾14:20～15:10 研究授業②
 - ・保健体育〔体育 2年128組 於：体育館〕授業者：教諭 一ノ瀬航
 - ・情報〔社会と情報 2年5組 於：社会科教室〕授業者：教諭 杉浦茂樹
 - ・英語〔コミュニケーション英語Ⅱ 2年6組 於：アクティブラーニングルーム〕授業者：教諭 吉原みどり15:30～16:20 研究協議（授業者による説明と振り返り、質疑応答、助言者によるご助言）
 - ・数学・理科・保健体育・情報 助言者指導：竹内英人 先生
〔於：アクティブラーニングルーム〕
 - ・国語・地歴公民・英語 助言者指導：佐々木香 先生〔於：視聴覚室〕



【古典Bでのグループ発表の様子】



【コミュニケーション英語Ⅱでの振り返りをスマホに入力する様子】

(6) 公開授業でのICT機器の活用について

今回の公開授業では、本校のあいちラーニング推進事業の取組の成果を発表する場として、研究目標の1つである、「ICT機器の積極的な活用」に焦点を当て、授業を行うことを共通の課題とし、公開した全ての授業においてICT機器を積極的に活用した。ICT機器を活用する場面は大きく5つに分けられた。

- ア プレゼンテーションの準備と発表のために活用した。
- イ 資料を提示するために活用した。
- ウ 実験を行うために、教員の模範実験例の提示と生徒の実験結果の集約のために活用した。
- エ 授業を進めるための補助教材として活用した。
- オ 生徒の動きを撮影し、自己分析を行うために活用した。

以上の取組により、各教科の特性を生かし、ICT機器を活用することができた。また、参観者から一定の評価をいただくことができた。

4 「思考力・判断力・表現力等」の評価についての取組

来年度より観点別評価が実施される。3観点のうち「思考力・判断力・表現力等」について、その評価方法や目指す生徒像を教職員全体で共有し、来年度から適正な評価ができるようにしたい。

「思考力・判断力・表現力等を問う問題とはどのような問題であるか。」について、本校では、5回の定期考査、全ての定期考査を教頭・教務主任が内容を見て、「思考力・判断力・表現力を問う問題」として出題されている問題をデータベース化し、全教職員が閲覧できるように、共有フォルダにアップし、職員会議や教育課程委員会で話題とした。また、教科会において作成した定期考査の問題を持ち寄り、同教科の教員どうして問題を検討する教科もあった。「思考力・判断力・表現力を問う問題」の例として、以下の4つの出題傾向があった。

- (1) 会話文形式の問題
- (2) 資料を読解・分析させ答えさせる問題
- (3) 問いに対して、賛成か反対の立場を意思表示させ、その理由を記述させる問題
- (4) ルーブリックを示し、そのルーブリックに即して評価する問題（英作文の問題）

こうした取組により、「思考力・判断力・表現力を問う問題」を作成する教員が徐々に増えてきた。そして、より「思考力・判断力・表現力を問う」を評価するのに適正な問題を作成するように心がける教員も増えてきた。

5 成果発表について

校内では3月3日（木）の職員会議にて、あいちラーニング事業のこの2年間の実践報告を行った。公開授業の報告、本事業の研究目標の達成度等の検証、さらには、本校が「主体的・対話的で深い学び」を今後も追究するにあたり、どのようなことが必要であるかについて、教職員全体で情報共有することができた。

加えて3月下旬に本校ホームページにて、取組の内容と成果を報告する予定である。

6 今後に向けて

「主体的・対話的で深い学び」の評価について、観点別評価の中の「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法を今年度は十分にまとめるまで至らなかった。評価対象となる授業での探究的な活動のさらなる工夫・充実を今後も目指していきたい。そのために、まず、「総合的な探究の時間」の内容を全面的に見直し、教科の垣根を越えた探究的な活動ができる授業内容を模索していく。1月以降、準備のための作業部会を立ち上げ、来年度からの実施に向けて検討を継続している。この2年間のあいちラーニング推進事業の取組が、一過性のものではなく、持続的な取組として定着するよう、引き続き授業改善を進めていきたい。また、ICT機器のさらなる活用を目指していきたい。今後、生徒1人1台タブレットが配備されることにより、授業でのICT活用をより加速させ、なお一層生徒が主体的に学習に取り組む授業を構築していきたい。